

ア) ミライの学校を創るプロジェクトの概要

1. 参加メンバー

幸小学校、池上小学校、富秋中学校PTA関係者	7名
就学前保護者	2名
町会関係者	2名
まちづくり検討会議メンバー	6名

各小中学校の校長もオブザーバーとして参加

2. 開催状況

第1回 令和2年7月11日(土)
第2回 令和2年8月1日(土)

次回については、本日の意見の内容を受けて決定。

10月に予定する説明会、アンケート調査の内容を予定し、
これまでの理解から、書面開催を基本にすることを確認済み。

3. ミライの学校を創るプロジェクトで確認したこと

・市の今後の進め方について

- ①秋頃に地域説明会(10/3 予定)、アンケート調査を計画している
- ②適正就学対策審議会を開催し、令和2年度中の答申をめざす
- ③令和3年度以降は、当該プロジェクトを学校開校準備委員会とする
 - 新校舎の具体像や新校における教育内容に係る意見交換
 - これらを学校教員も含めて実施していく

・市から説明があった項目

- ①小中が一緒になることへの不安解消に向けて現在行っている取組紹介
- ②施設一体型義務教育学校(小中一貫校)のイメージの再確認
- ③通学対応の考え方
- ④就学区域の考え方
- ⑤幸小学校、池上小学校の跡地利用の考え方

・意見交換(詳細は後述)

- ①こんなことも説明に含めた方がいい
- ②こういうことも言って欲しい
- ③こういう学校をめざして欲しい

・その他

意見交換の内容を踏まえつつ、市で説明会の準備を進めていく

→その際には、8/21(本日)に予定するまちづくり検討会議の意見も確認し資料を作成する。

イ) 本日の検討会議での目的確認

- ・進め方としては、検討会議メンバー内での意見交換
- ・市とのやりとりを行うものではない(質問はOK)
- ・「こんな学校をめざすべきではないか」、「こんな対応をおこなうべきでは」といった意見をだしあい、市における今後の方針整理、説明会での説明を検討願うもの

ウ) ミライの学校を創るプロジェクトでの主な説明、意見

①小中が一緒になることへの不安解消に向けて現在行っている取組紹介

	説明	意見
第1回	・学校間連携を強化し、情報交流、交流活動を促進する「学園づくり担当」を3校に設置。 ・「学園づくり担当」の負担軽減、学習活動に支障がないよう、市単独非常勤講師を配置 ・各校長先生による状況報告 ・池上小 6年生から1年生への校歌の贈呈 ・幸小 ALTと中学校教員を交えた外国語授業 ・富秋中学校 朝の検温時における先生との面談、富秋中学校応援団による放課後の学習支援	・市単独の加配など、不安解消に向けた取組みは、好感がもてる。 ・良い取組みについては、もっと積極的に情報発信をすべき(課題も知りたい) ・地域の声として、富秋中学校の生徒がよくなっているという話がでてきている。
第2回	—	—

②施設一体型義務教育学校(小中一貫校)のイメージの再確認

	説明	意見
第1回	・地域とともにある学校をめざす → 学校施設開放の充実 - 子ども、地域の居場所づくり - 地域活動の拠点づくり ・学校図書館の開放を検討 ・施設一体型の特長を活かした教育 → 多様な異学年交流 - 多くの先生での見守り 5年生からの部活動	・ハード面とソフト面の充実期待 ・今までの取組みも大事 → 人と人のつながり - 講堂も欲しい ・クラス数が課題では。どうなるか心配 → 先生の数はどうなるか？ ・地域の人数を増やす必要がある → まちづくりの推進が必須 ・開校までに小中学校の違いを整理必要
第2回	・1 学年 2 クラスが確保できれば、各校 11～13 人の先生が 38 人規模になること、全て 1 クラスでも 27 人の教員イメージで、今の 0～5 歳は、50～60 人いるので、2 クラスの想定がある。 ・上級生からの影響などの不安な部分を示しつつ、学校行事の充実や南松尾はつが野学園PTAの声など、メリット、デメリットを並列して説明し、総合性で理解を求める ・新校舎整備も計画していることを伝える	・魅力発信が非常に重要 ・教員数は心配しているところなので、わかりやすい説明が必要 ・新校の際には、教員も移行できるような配慮必要 ・加配教員や SSW などの専門員の配置希望 ・図書館の開校などに際しては、公園的機能などを併設することや民間活力の検討も活性化が期待される

③通学対応の考え方報告

	説明	意見
第1回	・小中一貫校の方針決定後、開校するまでの期間にて、必要な対応を検討。	・通学の考え方は、ある程度説明しないと、不安が残り、好ましくない。 ・幸校区、池上校区、課題は異なるので、課題に応じた説明が必要 → 幸校区は線路対策、歩道橋希望 - 池上校区は、狭い道路への対応
第2回	・幸校区については、歩道橋の設置を確約できるものでないが、踏切の前で子どもたちが安全に横断を待つことができるようなスペースの確保など、横断対策を検討する。 ・池上校区については、狭い道路への対応として、グリーンベルトやカラー舗装の工夫、ラバーポール等による歩道確保、既存防犯カメラの移設、道路標識の整理などを検討する。	・線路対策に不安に感じる人が多いこと共有 ・歩道橋、アンダーパスの設置が難しい理由は、みんながしっかりと情報共有したうえで、設置が可能かどうか含めて検討していくことが重要。 ・見守り隊以外に行政支援での対応をお願いしたい。 ・富秋中前の溝蓋や信号、見通しの悪い場所への対応も検討必要。



線路の横断対策の検討



グリーンベルト



ラバーポール



④就学区域の考え方報告

道路標識の整理

	説明	意見
第1回	・葛の葉町は、新たな施設一体型義務教育学校(小中一貫校)の就学区域とするが、小学校入学の際に、信太小学校、信太中学校を選択できる対応を検討している。 ・まちづくり構想の策定を受け、市より、信太校区長、葛の葉町4町会長へ、これまでのまちづくり構想の策定経過、施設一体型義務教育学校(小中一貫校)の検討状況を説明し、葛の葉町が必ず施設一体型義務教育学校(小中一貫校)の就学区域とするなら反対であるが、選択制については、理解すること、魅力ある学校であれば、通学するのではないかと意見があったこと報告。 ・市としては、様々な意見を今後も確認し、市が決定するのではなく、適正就学対策審議会にその意見を報告し、答申を求めることとする。	・人数の確保は非常に重要。 → 葛の葉町の児童生徒 まちづくりによる児童生徒 ・葛の葉町の児童生徒が通学したいと思う学校づくりを進めていくことが重要になる。 ・葛の葉町とも連携して、説明の場を設けることや学校の魅力を理解してもらう活動をしていきたい。
第2回	—	—

⑤幸小学校、池上小学校の跡地利用の考え方報告

	説明	意見
第1回	・池上小学校は、校舎等は原則除却のうえ、広場機能は確保のうえ、その他、まちに必要な機能を確保していく。 ・幸小学校は、近隣の市営住宅跡地に都市公園を確保し、校舎は原則除却し、まちに必要な機能を確保していく。	・池上小学校の跡地には、老人集会所、町会館を集約することはできないか。 ・跡地には、防災機能の確保が重要 ・跡地に新しく引っ越してくる人が地域に馴染みやすい取組みを進めて欲しい。 ・具体的なイメージは早く知りたい。
第2回	・池上小学校の跡地には、広場機能に老人集会所の確保、町会館用地の売却を検討のうえ、その他、まちに必要な機能を確保し、これらにより、防災機能を確保。 ・幸小学校の跡地には、隣接に旭公園の移転整備を行い、防災機能を確保しつつ、まちに必要な機能を確保していく。	・池上小学校の跡地は、早く具体を整理して欲しい。 ・防災倉庫の集約も検討必要。 ・学校利用団体がどうなるのか、整理必要。 ・市としてのスタンスを一層明確化すべき



池上小学校



幸小学校